



こどものうち八栄寮

14歳女児作

「非日常を求めること」

理事長 村松 満

コロナ禍の自粛生活も、こう長く続くとさすがに疲れや飽きが出てきます。久しく会っていない友人とも会いたい、趣味のいろいろなイベントにも参加したいなど、様々な欲求が出て来るのも人間の本性でしょう。

しかし逆に、この本性があればこそ、人間を心身ともに活性化させ、新たな行動に向かわせ、それが自身の成長にもつながっていく。そんな循環があるように思います。

その意味で言えば、普段の日常から離れ、違った環境の中で新たな体験をしていくことは、大きく言えば、一個人の成長だけでなく、社会全体の発展にもつながっていくのではないかとともに考えるところです。

私どもの八栄寮とリフレここのえでは、年間行事として毎年多くのイベントを実施しています。しかし、このコロナ禍においては、例年とは違った形で実施せざるを得ず、従前行われていた、ご近所の方たちにも参加していただいた大賑わいのイベントがなくなりました。誠に残念ですが、このコロナ禍、やむを得ないと言わざるを得ません。

以前、私が八栄寮のあるイベントに参加した際、ご近所の児童施設の所長さんから、「私のところは市内イベントが多い」と言われたことがありました。私は「どうしてそんなに多く実施するのですか」と問い返すと、「子どもはイベントをするごとに目に見えて成長するのです。それがわかるのです」と仰っていたのが思い出されます。

新たな体験というのは、大人も子どもも同じようにワクワクし、楽しいものです。その中で、子どもたちは自身の成長を自覚し、あるいは仲間との協力を通して協調性を学び、さらには自己の肯定感などを獲得していく。とても大切な事業だと思います。

コロナ禍が明けた暁には、再び、かつてのような賑やかな催しが行われ、子どもたちの弾けるような笑い声と歓声を聞きたいものだと、心から思うのです。

担当する職員の皆さんには、大変なご労苦であることを理解しつつ、それを期待したいと思います。

久しぶりの行事での親子の元気な様子

リフレここのえ 施設長 横井 義広

リフレここのえでは、コロナ禍の状況ではありますが、ギリギリまでコロナの感染状況や移動でのリスクなどを検討しながら、今年度の小学生は一泊のキャンプを行うことができました。あいにくの雨でしたが、聞くところによると男女に分かれたテント内では、「女子会」、「男子会」が行われていたようです。そういえば自分たちの子ども時代は親類が集まると、従妹（いとこ）たちと夜遅くまで遊んだり叱られたりしたことがとても楽しかった記憶があります。きっと子どもたちもテント内で過ごしたことはいつまでも覚えていることでしょう。

「懇談会」は、いつもは職員がご飯を手作りして利用者と一緒に食べるのですが、コロナの感染が世間で広がるとお弁当等で対応してきました。感染が落ち着いていた頃に、工夫しながら地下ホールで利用者のみ家族ごとに食事をした時がありました。家族がどのように食事をしているか、家庭内の家族の様子的一端が見えることが私たちにとってとても大事な瞬間です。また、普段子どもの食事の世話の合間に忙しく食べていたお母さんにとって、職員が子守を手伝うことでゆっくりとご飯を食べられる機会にもなります。「大人と話をしながらご飯を食べることができてうれしかった」と言ってくれる人もいます。

もうかれこれ2年も行けなくなっていた「親子旅行」も様々な条件が整ったので開催しました。貸し切りバス、貸し切りホテル、毎日の健康観察など職員はとても苦労しながらの実施でした。前日まで、子どもよりもお母さんの方がみんなと行くことに不安を感じ、何らかの理由で参加を躊躇していたお母さんがいました。しかし、当日は誰よりもはしゃいでいたり、いざ行ってみると職員のそばから離れないお母さんがいたり、普段見られない姿に職員は新たな発見をしました。

行事はあって当たり前とと思っていましたが、無くなってみて、再び行うことができるようになって、その大切さが見いだせた今日この頃の感想でした。



[各施設在籍者・利用者数]

(令和4年11月末現在)

こどものうち八栄寮 幼児 10名 小学生 14名 中学生 15名 高校生 10名 措置延長児 1名 【計 50名】	リフレここのえ 乳幼児 14名 小学生 13名 中高生 2名 【計 18世帯 47名】	八王子市子ども家庭サービス事業利用者数 令和4年6月～令和4年11月末 ショートステイ 422名 トワイライトステイ 147名 合計 569名
---	---	---

一泊二日のキャンプ

リフレここのえ 少年指導員 島田 菜々美

リフレここのえの学童では、8月に学童全員で奥多摩へ、一泊のキャンプに行きました。初日の天候はあいにくの雨でしたが、バンガローの中で子ども達は「みんなでここに泊まるの?」「お泊り会みたい」と楽しむ姿が見られました。夜ごはんは皆でカレーやナンを作りました。男の子たちは率先してかまどの火を見ながら頑張る姿が印象的でした。夜には雨もやみ、皆で手持ち花火を行いました。花火を初めてやる子が多く、二本同時に火をつけたり、花火の種類の違いを楽しんだりと様々な楽しみ方をしていました。二日目は晴天に恵まれ朝食は子ども達が自分で掴んで取ったマスを食べました。



初めは怖がっていた子も周囲の子ども達や職員と一緒にマスを捕まえることが出来ました。その後は水遊び等たくさん遊び、帰りの電車ではほとんどの子が疲れて眠っていました。帰所後にお母さんから「キャンプとても楽しかったみたいです」等の話しを聞くことができ、実施することが出来て良かったと改めて感じる事が出来ました。今後も感染対策を行いながらも、たくさんの行事を行い、その中で子ども達の中に楽しい思い出や経験を増やしていきたいと感じます。



久しぶりの親子旅行

リフレここのえ 母子支援員 野島 未央花

9月初旬、リフレここのえでは例年「親子旅行」という全世帯での1泊旅行へ出かけていました。シングルマザーとして日々を頑張っているお母さん達の息抜きと、お子さんたちに家族旅行の思い出を作るために毎年行っているリフレの一大行事でしたが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で過去2年間は開催ができずにいました。今年もまだまだ予断を許さない状況でしたが、この2年間で培った感染対策のノウハウと、観光会社・宿泊施設の協力により、旅行を実施することが出来ました。久しぶりの大きな施設行事になるため、始まるまでは不安もありましたが、当日参加された家族の笑顔を見て、本当にやってよかったと思えました。あるお子さんはホテルへの宿泊が初めてで、綺麗なお部屋と大きなベッドで眠ったことが一番楽しかったと話してくれました。家族のだんらんの時間に職員も一緒に参加することによって、日常生活では見ることのなかった家族の様子や、子ども達の成長を垣間見ることもでき、それを日々の支援に活かすような取り組みも生まれました。改めて施設での行事の意義を発見する機会となり、今後も行事を大切にするリフレでありたいとの気持ちを新たにしました。



行事と子どもの力

こどものうち八栄寮 施設長 大村 正樹

私達は、入所する子ども達の単調になりがちな生活に刺激や喜び、そして潤いをもたらしたいと思い、行事やレクリエーションを行っている。また、行事やレクリエーションを通じて、子ども達の心に何かしらのものを残し、そのことが子ども達のその後の人生を生きていくときの「力」になってほしいと願っている。

数年前のことである。

障がい者グループホームの管理者として働いている退寮生（女性）が八栄寮にやってきた。入居者を募集するためである。

話をしているとき、ふと、彼女が言った。

「私が、障がい者のグループホームで働くようになったきっかけは、八栄寮に入所しているときに参加した障がい者施設でのワークキャンプだったんだ。社会人になって、児童養護施設で生活した経験を活かし、社会に恩返しをしたいと思った。その時、障がい者施設のワークキャンプに参加したことを思い出したんだ。」

当時、彼女はとてもやんちゃで、いろいろとトラブルを引き起こしていた。行事に対しても、一つ一つ文句を言っていた。そんな彼女の口からこのような言葉がでるとは全く予想していなかった。

コロナ禍になり、今まで当たり前に行っていたキャンプやサッカーなどのスポーツ行事が軒並み縮小・中止になった。しかし、この夏、感染対策を施し、行事を再開した。子ども達は歓声をあげ、笑顔で行事を楽しんでいる。

私はコロナ禍の状況であっても、子ども達の成長のために行事を続けていきたい。



行事と成長

こどものうち八栄寮 児童指導員 阿部 淑郁

入職して初めて参加した行事は5月に行われた「こいのぼりフェスティバル」でした。例年は「こどもの日フェスティバル」という行事を行っていますが今年度はコロナ禍のため開催できなかったため子どもたちと一緒にオリジナルの行事を考えました。私は5名の子ども達と一緒に射的屋を開くことになりました。絵が得意な子、ゲームのルールを考えるのが好きな子、接客が上手で盛り上げ上手な子などそれぞれに素敵な一面があり、子ども達自身が行事の作り手となることで彼らが存分に発揮されており嬉しく感じました。一方で、皆の輪に入らず私の声掛けにも反応があまりない高校生がおり、その時はどう関わろうかと戸惑いや寂しさを感じていました。しかし、当日後片付けの最後に「お疲れ」という労いの言葉とおやつを渡しに来てくれた事が印象に残っています。思春期に入るとつれて行事が照れくさくなったり素直にはしゃげなくなったりするのは成長の証であり、その中で彼なりに楽しみ方を見つけて最後まで参加できたことを嬉しく思いました。

夏のキャンプや夕涼み会など行事を全力で楽しむ子ども達が眩しく、どんどんとたくましく成長していく姿に驚きと感動を覚えます。私も子ども達と共に成長していけるよう学び続けていきたいと思えます。



夏行事、お疲れ様

こどものうち八栄寮 児童指導員 石田 浩二

今年の夏休みも例年通り。という訳にはいきませんでした。それぞれの年代でのキャンプやプールへの招待行事、外泊ができない児童の為にサマーレク等様々な行事を行いました。コロナ禍でも可能な行事を考え、準備を進めていきましたが、その中でも子ども達にとって、行事がいかにか大切かを感じました。子どもたちは、どの行事でも表情をイキイキとさせ、大いに楽しんでいました。普段とは違うお兄さん、お姉さんな姿や、準備、片付けなど子ども達が協力してくれることも多く、頼もしい姿もたくさん見ることができました。また、職員にとっても夏休みの中で、それぞれの行事を準備、実施をしていく作業は、もちろん大変ですが楽しさを感じることもできる内容であったと思います。職員の中には子ども以上に楽しそうにしている姿もちらほらと。それが子どもにとっても思い出に残ると思います。子ども、職員双方が数年後に今年の行事はこうだったと笑顔で話せるとよいと思います。皆さん、お疲れ様でした。



女子グループワークでの子どもたちの姿

こどものうち八栄寮 児童指導員 藤城 恵実

今年度、3年ぶりに小中学生女子のバレーボールのグループワークを行いました。私は入職して初めて監督を任せて頂きました。

初めは挨拶もそろわず、皆どこか他人行儀。声を出して練習することもできませんでした。バレー部でもない、ましてや運動部でもない子どもたちにはかなり酷な要求であるとは思いつつ、チームでスポーツをする上で大切なことを繰り返し伝えていきました。

今年度は大会や他施設との交流戦は行うことが出来なかったため、職員や高校生に集まってもらい、試合を行いました。大きな声でしっかりと挨拶をし、真剣な眼差しで試合に臨む子どもたち。職員チームは手加減をせずに相手をしてくれました。連続で点を取られてしまった時には、心が折れながらも、全員で励まし合い、最後まであきらめずにプレーしました。しかし結果は負け。悔しさで、何人もの子どもたちが涙を流しました。

今夏、仲間と一丸となり、一つの目標に向かいこれだけ本気になる経験ができたこと、その中で感じたことが、少しでも心に残り、困難を乗り越えるための糧となることがあれば嬉しく思います。



戻りつつある生活

こどものうち八栄寮 児童指導員 川野 雅貴

コロナ禍の生活が約2年半経ち、子どもたちはその生活に慣れつつあります。私はコロナが流行り始めた時期に入職し、今年で3年目になります。入職当時は1年間の生活を知らないため、先輩職員や子どもたちに色々聞きました。

しかしコロナの感染拡大防止のため、大掛かりな行事は縮小化や中止を余儀なくされてしまいます。子どもたちは楽しみにしていた行事が大きく変わってしまったこと、または中止を知ると残念がっていました。ですが社会もコロナへの対応が進み、ここ最近では出来なかった行事も再開できるようになりました。それを聞いた子どもたちはとても喜んでおり、徐々にですがもとの生活に戻りつつあります。

例年は小学生たちでスポーツ大会に参加しており、今年はフットサル大会が行われました。そこでは私が初めて監督をさせて頂き、子どもたちと共に練習を行ってきました。私はチームとして、全員が「最後まで諦めずに一生懸命頑張る」ことを目標にして取り組みました。そして子どもたちもそのことを意識しながら大会に臨み、準優勝することが出来ました。今年のチームは6年生も多いことから、良い経験と思い出になったと思います。





学習塾から家庭支援へ

学習塾オリーブみらい 塾長 内山 大樹

今年の秋で5周年を迎えたオリーブみらいは、学習支援・食事提供・家庭支援の3つをコンセプトに活動しています。

これまで入塾してきた生徒の中には、不登校やひきこもりの経験者がいます。今でも不登校という状態の生徒もいます。そういう状態にある子どもは、生活に対するエネルギーがないので塾に通ってくるのも苦労します。それがご家族にとっても負担であることがあります。そんな時は家庭に出向いて一緒にカードゲームをしたり散歩をしたりします。学校や勉強の話はしません。本人にとってはそれどころではないからです。そういうことを続けていると少しずつ状況が変わってきます。ある生徒は自らの夢をモチベーションにして学校に復帰し、現在では高校生活を楽しんでいます。ある生徒は高校での一発逆転を狙い、不登校ながらも塾には来て受験勉強を頑張っています。中学校から高校にかけて、このように周りの世界が家から社会へと広がっていった生徒は当塾では少なくありません。

時々、「ここって本当に塾ですか?」と言われるます。おそらく、食事をはじめ、家庭訪問や、学校の行事参観や、散らかった子ども部屋を片付けたりするからでしょう。私たちは学習塾ですが、その最終ゴールは高校入学ではありません。その先の社会的、精神的、経済的な「自立」を見据えて、生徒やご家族との授業以外の関わりもすべて未来につながっていると考えています。子どもにとって、いざというときにその人の“人生の岐路”と一緒に立てる存在になれば嬉しいです。

私たちの活動を応援してくださっている方々に心から感謝申し上げます。

ほっとできる場所を目指して



5年前、オリーブみらいと一緒に開設されたのがえんとうむしです。

保育園や幼稚園に入る前の概ね0~2歳のお子さんとその親御さんが遊びにくることができる子育て応援ひろばです。これまで親子に楽しんで頂く為に様々なイベントを行なってきました。プロの方によるネイル、リトミックや歌のお楽しみ会、ママシアター、看護師さんによる乳幼児のアレルギーやリスク講座、歯科衛生士さんによる相談会、レジニアクセサリー作り、缶バッジ作りなどです。

保育園や幼稚園に入るまでの1年~2年のお付き合いの方が多いのですが、親子で一緒に過ごす時間の多い時期だからこそ、ふらっと立ち寄り、ほっとできる居場所になればと思っています。

Instagram
はじめました



Thank you Santa Claus.



今年度も春夏秋冬、たくさんのサンタさんが来てくださいました。子どもたちのしあわせを願い温かく応援していただいていることに感謝しております。

パン・野菜・お菓子などおいしいもの、シャンプー・ラグマット、洋服、家電など子どもたちの生活が豊かになるもの、自転車、楽器、ドレス、ゲームソフトなど子どもたちの遊びが充実するもの、チューリップなど心を和ませてくれるもの、個人・企業・団体のみなさまからたくさん頂きました。



ご支援頂きました寄附金も大切に使用させて頂いております。その中の一つでは、デジタルカメラを購入させて頂きました。また、「子どもたちの好きなものをと思いましたが、何がいいかわからないので・・・」とお話くださった方もいらっしゃいました。おやつにドーナツを購入させて頂きみんな大喜びでした。

～子どもたちのしあわせのために～

- 1 郵便振替 : 社会福祉法人同胞援護婦人連盟 00110-1-499359
- 2 ゆうちょ銀行 : 社会福祉法人同胞援護婦人連盟 019店 当座 0499359
 - ・折り返し当法人からの領収書をお送りします。
 - ・社会福祉法人に対するご寄附は確定申告で所得控除の対象になります。
 - ・住民税控除についてはお住まいの区市町村へお問い合わせください。

社会福祉法人同胞援護婦人連盟

児童養護施設 こどものうち八栄寮
母子生活支援施設 リフレここのえ
八王子市 子ども家庭サービス事業

〒193-0944 東京都八王子市館町 2232-1

Tel:042-661-5891 Fax:042-667-0006

<http://www.yasakaryou.or.jp> (八栄寮 HP)

<http://www.doenfujin.jp> (法人 HP)

編集後記

今月号のテーマは「行事」です。今年度は、コロナ禍の状況の中でも感染対策をしながら工夫して、様々な行事を行うことができました。子ども達が行事の中で楽しみ、成長した姿を皆様にお届けできればと思っています。

【広報誌担当 馬淵将吾・後藤愛香・鈴木奈津実】

ご意見・ご感想・ご質問を法人宛のお手紙または FAX でぜひお寄せ下さい。お待ちしております。